

生理学実習

[実習] 第2学年 前期 必修 1単位

《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》○小野誠司 幸村 近 沖野久美子

【概 要】

生理学Iおよび生理学IIで習得した知識をもとに、ヒトの生理機能について実習を通じて理解を深める。本実習では1)運動負荷と循環器の応答、2)運動負荷と呼吸器の応答、3)腎臓における尿生成、4)光刺激と神経系の応答、5)皮膚領域の触点、痛点分布、6)空腹時、食後の血糖値の変化、7)随意運動・不随意運動の動作分析についての実習をおこなう。

【学習目標】

生理学において学習した内容を実習を通してより深く学び、現実遭遇する異常を理解できるよう学ぶ

- 1) 実習を通じて人の正常で基本的な生理反応を学ぶ
- 2) さまざまな器官の機能と役割について理解することで病態の理解へと繋げていく
- 3) 実習で対象となる臓器を深く知る

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1-9	ガイダンス グループ別実習	実習1 血圧・心拍数の測定(ABCグループ) 実習2 温熱性発汗(BCAグループ) 実習3 酸素飽和度・呼気CO ₂ の測定(CABグループ)	小野誠司 沖野久美子 幸村 近
10-18	グループ別実習	実習4 腎臓における尿生成(ABCグループ) 実習5 血糖値測定-糖負荷と運動負荷(BCAグループ) 実習6 皮膚感覚視覚機能の測定(CABグループ)	小野誠司 沖野久美子 幸村 近
19-21	まとめ	今までの実習結果をまとめディスカッション	小野誠司 沖野久美子 幸村 近
22-24	PBL発表	発表担当グループより各実習の発表を行い、全員でさらなる課題や問題点などを討議することでより深く生理現象を学ぶ	小野誠司 沖野久美子 幸村 近

【評価方法】

授業態度 30%、レポート 70%

【備 考】

教科書 : 使用しない
配布する実習資料を用いて行う

参考書 : 大橋敦子監修 生理学実習navi第2版 医歯薬出版

【学習の準備】

実習する対象の臓器に関して生理学で学んだことを整理する。

【ディプロマポリシーとの関連性】

(DP2) 臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。
(DP4) 臨床検査のスペシャリストとして、進歩や変化に常に関心を持ち、生涯にわたり自己研鑽する姿勢を身につけている。
(DP6) 臨床検査学領域における様々な問題や研究課題に対し、解決に向けた情報の適切な分析、科学的思考と的確な判断ができる能力を身につけている。

【実務経験】

小野誠司(臨床検査技師) 沖野久美子(臨床検査技師) 幸村 近(医師)

【実務経験を活かした教育内容】

生理検査を主体とした臨床検査技師としての実務経験を活かした教育を行う